

校長室通信 9/8 28号

むご きょういく 惨い教育

昨日、朝から汗だくになって「木鉢から歩いて登校」してくる児童がいました。

「よく頑張っているねえ！えらい！」と声掛けすると、「お父さんから歩くように言われています。歩いた日にはカレンダーに〇を付けて褒めてくれます。」と返事がありました。「君のことをよく考えてくれているすてきなお父さんだね。」と伝えました。と同時に「惨い教育」という徳川家康の話を思い出しました。次に紹介します。

徳川家康は、幼少の頃の名前を竹千代と言いました。竹千代は、人質として今川家に預けられていました。その今川家の11代の当主だった今川義元は、

「竹千代には惨い教育をしろ。」

と家来に命じたそうです。それを聞いた家来たちは、竹千代に粗末な食事を与え、ほとんど休みなく武術を教え込んだそうです。しかし、これを聞いた今川義元は大変怒り、こう言ったそうです。

「竹千代の身の回りのことは何から何まで世話をしてやれ。眠いと言え、どこでも、どれだけでも眠らせよ。ほしがる物はすべて与えよ。寒いと言え、あたたかい物をたくさん着せよ。学問が嫌いならばさせなくて良い。何事も好き勝手にさせよ。書物を読ませたり、剣術や馬の稽古などは一切させるな。」

最後に今川義元はこのように付け加えたと言われています。

「そのようにすれば、人間はだめになるから。」

今川義元は、将来今川家の強敵になりそうな竹千代の素質をつぶしてしまうために、持って生まれた能力を摘み取り、生きながらにして死んだような竹千代を育てようとしたのです。

現代の私たちの生活は、物が身の回りにあふれ、ほとんど不自由なく生活することができます。自分の生活に深く関わることで、身の回りに代わりにやってくれる人がいるので、それを自分でせず済むこともあります。暑さや寒さは感じても、室内にいればそれを感じることはありません。だだをこねてわがままを言ってみれば、それが通用することさえあるのではないのでしょうか。現代の私たちの生活は、今川義元の言う『惨い』に近い生活だと感じます。しかし、このような私たちの生活を変えることは簡単ではありません。

それでは、私たちはどうしたらいいのでしょうか。

私は、そのキーワードは「我慢」だと考えています。

きついことにも「我慢」をして取り組むこと。嫌なことにも「我慢」して挑戦すること。

楽なことから自ら離れ、困難を積極的に受け入れることが大切なことだと考えています。頑張って歩いて登校する子供の姿に改めて教えられました。

学校外でも頑張っている児童の紹介

今回紹介するのは、「バスケットボール稲佐女子」「小榊サッカークラブ U10」「バドミントン」で頑張っている子供たちです。

